

一般競争入札を行いますので、京都市契約事務規則第5条の規定に基づき、次のとおり公告します。

平成22年10月20日

京都市長 門川 大作

1 競争入札に付する事項

本件は、下記のア、イ及びウの委託について、一括して入札し、契約しようとするものである。

(1) 委託件名

ア 京都市移動通信用鉄塔施設新設工事監理業務委託

ただし、杉阪道風町移動通信用鉄塔に係る工事監理業務委託

イ 京都市移動通信用鉄塔施設新設工事監理業務委託

ただし、広河原菅原町移動通信用鉄塔に係る工事監理業務委託

ウ 京都市移動通信用鉄塔施設新設工事監理業務委託

ただし、大原百井町移動通信用鉄塔に係る工事監理業務委託

(2) 履行場所（対象）

ア 京都市北区杉阪道風町49番4

イ 京都市左京区広河原菅原町122番2

ウ 京都市左京区大原百井町44番2

(3) 業務概要

(1)ア、イ及びウの業務概要については、共に、次のアからオまでに示す工事監理に係る主な業務を行う。

ア 設計内容を把握し、請負業者等に対して正確に伝えるための業務

イ 施工図等を設計図書に照らして検討する業務

ウ 工事の確認及び報告に関する業務

エ 工事監理業務完了手続に関する業務

オ 指導監督に関する業務

(4) 履行期間

(1)ア, イ及びウの履行期間については, 共に, 契約の日から平成23年2月28日まで

(5) 支払条件

(1)ア, イ及びウの前金払及び部分払いについては, 共に, 前金払はなしとし, 部分払は必要に応じて支払うものとする。

2 本件入札に関する問い合わせ先

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市行財政局財政部契約課工事契約担当

(電話075-222-3313)

3 入札参加資格に関する事項

本件入札の一般競争入札参加資格確認申請書(以下「申請書」という。)を提出する日において, 現に京都市契約事務規則(以下「規則」という。)第4条第1項に規定する一般競争入札有資格者名簿に登載されている者であって, 同日((3)にあつては, 公告の日から開札の日までの間)において, 次に掲げるすべての条件を満たす者

(1) 「競争入札参加有資格者名簿(測量・設計等)」の建築設計種目又は設備設計種目(いずれも建築関係設計コンサルタント)に登録されていること。

(2) 次のア及びイの資格を取得している者を配置し得ること。なお, 配置予定の技術者は常勤の自社社員であり, かつ開札日において, 引き続き3箇月以上の雇用関係があることとし, 落札後において, 実際に配置する技術者の変更は認められない。

ただし、ア及びイの資格を有している者は、同一の者でなくてもよいものとし、この場合、ア又はイのいずれか一方の監督員は、書面により本市の承諾を得たうえで、再委託をしてよいものとする。

なお、実務経験とは、建築又は電気に係る工事の施工管理（工程管理、品質管理等）の経験又は工事監理の経験をいう。

ア 建築監督員

(ア) 1級建築士

ただし、資格取得後2年以上の実務経験を有する者

(イ) 2級建築士

ただし、資格取得後7年以上の実務経験を有する者

(ウ) 大学（建築に関する専門課程）卒業後、5年以上の実務経験を有する者

イ 電気監督員

(ア) 一級電気工事施工管理技士

(イ) 二級電気工事施工管理技士

ただし、資格取得後3年以上の実務経験を有する者

(ウ) 大学（電気に関する専門課程）を卒業後、5年以上の実務経験を有する者

(エ) 高等学校（電気に関する専門課程）を卒業後、8年以上の実務経験を有する者

(3) 京都市競争入札等取扱要綱（以下「要綱」という。）第29条第1項の規定に基づく競争入札参加停止措置を受けていないこと。

(4) 関係会社の参加制限

本件入札に参加しようとする者で、次の各号のいずれかの関係に該当する場合は、そのうちの一者しか参加できない。

ア 資本関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし、子会社（会社法第2条第3

号及び会社法施行規則第3条の規定による子会社をいう。以下同じ。)又は子会社の一方が会社更生法第2条第7項に規定する更生会社(以下「更生会社」という。)又は民事再生法第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社である場合を除く。

(ア) 親会社(会社法第2条第4号及び会社法施行規則第3条の規定による親会社をいう。以下同じ。)と子会社の関係にある場合

(イ) 親会社を同じくする子会社同士の関係にある場合

イ 人的関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし、(ア)については、会社の一方が更生会社又は民事再生法第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社である場合は除く。

(ア) 一方の会社の役員が他方の会社の役員を現に兼ねている場合

(イ) 一方の会社の役員が他方の会社の会社更生法第67条第1項又は民事再生法第64条第2項の規定により選任された管財人を現に兼ねている場合

ウ その他入札の適正さが阻害されると認められる場合

前各号と同視し得る資本関係又は人的関係にあると認められる場合

4 入札方法等

(1) 本件入札は、京都市電子入札システムにより行う。

京都市電子入札システムによる入札は、次のア又はイのいずれかの方法による。

ア 電子入札コアシステムに対応している認証局が発行したICカード(本市に提出済みの「使用印鑑届」と同一人のもの又は受任者がいる場合には受任者のもので、かつ落札決定の日時までの間において有効であるものに限る。)を取得したうえで、京都市電子入札システムへの利用者登録を行っている者が、インターネットを利用して入札データを送信する方法(以下この方法により入札する者を「インターネット利用者」という。)

なお、インターネット利用者は入札データを送信しようとする日までに京都市電子入札システムへの利用者登録を行っていないなければならない。

イ 入札端末機利用者カード（規則第6条第4項に規定する入札端末機利用者カードをいう。）の交付を受けている者が、京都市行財政局財政部契約課（以下「契約課」という。）に設置する入札端末機（規則第6条第2項に規定する入札端末機をいう。以下同じ。）を使用することにより入札データを送信する方法（以下この方法により入札するものを「端末機利用者」という。）

なお、端末機利用者が入札端末機利用者カードの発行を受けていないときは、入札期間終了の1時間前までに入札端末機利用者カードの発行を申請し、同カードの発行を受けていなければならない。

(2) 本件入札に参加しようとする者は、公告の日から入札期間初日の直前の開庁日の午後5時までに、次のア又はイの方法により、当該委託に係る設計図書等を入手し、積算のうえ、(6)に記載する入札期間に入札を行うこと。

ア インターネット利用者は、京都市電子入札システムにより、インターネットを利用して設計図書等をダウンロードすることにより入手する（この場合、設計図書等を入手しようとする日までに、京都市電子入札システムへの登録を行っていないなければならない。）。

なお、インターネット利用者であっても設計図書等を購入することができるものとするが、この場合、インターネットを利用して複写承認書を入手のうえ、(3)により設計図書等を購入すること。

イ 端末機利用者は、契約課に設置する入札端末機により、複写承認書を入手（この場合、複写承認書を入手できる期間終了の1時間前までに、入札端末機利用者カードの発行を申請し、同カードの発行を受けていなければならない。）のうえ、(3)により設計図書等を購入すること。

(3) 上記(2)ア後段及び(2)イにより当該委託に係る設計図書等を購入しようとする者

は、前項で入手した複写承認書を、上記(2)の期間内に次の設計図書等の販売業者に提示して購入すること。

(設計図書等の販売業者)

株式会社平安光業

京都市中京区丸太町通烏丸西入北側（電話075-231-1177）

想定販売金額 2,070円（A4コピー 96枚, A3コピー 21枚）

(4) 落札価格は、入札金額に当該金額の100分の5に相当する額を加算した額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、消費税及び地方消費税を含まない金額を入力すること。

(5) 入札者は、送信した入札データの訂正又は撤回をすることはできない。また、入札者は、入札データ送信後の辞退はできない。

(6) 入札期間

平成22年11月1日（月）、2日（火）及び4日（木）の午前9時から午後5時まで。ただし、端末機利用者は正午から午後1時までを除く。

(7) 予定価格

本件の入札に係る予定価格は、次のとおりである。

予定価格 2,862,000円（消費税及び地方消費税を含まない。）

(8) 入札参加資格確認申請書等の提出

入札に参加しようとする者は、下記の書類を(10)に記載の方法により提出しなければならない。

なお、必要書類の作成に係る費用は申請者の負担とし、提出された書類は返却しないが、本市において無断で使用しないものとする。

ア 一般競争入札参加資格確認申請書（用紙交付）

イ 技術者配置予定調書（用紙交付）

3(2)の技術者を記載し、免許証、合格証明書、卒業証明書（専門課程が記載されていること）等、資格が確認できるものの写し及び雇用関係を証明し得る書類（健康保険証等）の写しを添付すること。また、技術者の資格に実務経験が該当する場合は、経歴書もあわせて記載すること。

ただし、再委託する予定の技術者については、記載及び必要書類は不要とする。

(9) 入札参加資格確認申請書等の交付

本件入札の公告の日から入札期間終了まで、契約課のホームページ（ホームページのアドレス <http://www.city.kyoto.jp/rizai/chodo/>）及び契約課に設置する公告閲覧専用端末機に入札公告と併せて入札参加資格確認申請書、技術者配置予定調書及び履行実績調書を掲示するので、契約課のホームページ又は契約課に設置する公告閲覧専用端末機から当該申請書等をダウンロードのうえ、A4判の帳票として印刷し使用すること。ただし、公告閲覧専用端末機による交付期間及び交付時間は、京都市の休日を定める条例に規定する本市の休日（以下「休日」という。）を除き、午前9時から午後5時まで（ただし、正午から午後1時までを除く。）とする。

(10) 入札参加資格確認申請書等の提出

入札参加資格確認申請書等は次のア又はイの方法により提出すること。

ア インターネット利用者の場合

入札データを送信する際、ワード、エクセル（Office2003で扱えること。）又はPDFファイル（Adobe Reader7.0で扱えること。）にして添付すること。

なお、添付できるデータは1ファイルのみであるので、入札参加資格確認申請書等を1つのファイルにして添付すること。

イ 端末機利用者の場合

入札参加資格確認申請書等を封入、封かんし、封筒表面には入札番号、委託

件名及び履行場所のみを記載して、4(6)の入札期間内に、2の場所に設置してある「入札資料提出ポスト」に投函すること。

5 開札及び落札者の決定

(1) 開札予定日時

平成22年11月5日(金)午前9時30分

(2) 入札参加資格の確認

開札後、予定価格の範囲内で最低の価格をもって有効な入札を行った者について、入札参加資格の確認を行う。確認を行った結果、入札参加資格がないと認められるときは、その者の行った入札は無効とし、予定価格の範囲内で有効な入札を行った他の者のうち、次に最低の価格をもって入札を行った者について、入札参加資格の確認を行う。

なお、予定価格の範囲内で有効な入札を行った者のうち、入札金額が同額の者が二者以上あるときは、開札時に抽選により入札参加資格の確認を行う順位を決定する。

(3) 落札者の決定

予定価格の範囲内で最低の価格をもって有効な入札を行った者のうち、入札参加資格を有すると認めた者を落札者とする。

(4) 入札参加資格の取消し等

入札参加資格を確認する前に、入札者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、その者の入札参加資格は認めない。また、入札参加資格の確認後、落札決定までの間に、入札者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、その者の入札参加資格を取り消す。

ア 規則第2条第1項の規定により定めた一般競争入札参加者の資格を喪失したとき。

イ 3に規定する本件入札に参加する者に必要な資格を喪失したとき。

ウ 要綱第29条第1項の規定により定めた競争入札参加停止措置を受けたとき。

エ その他市長が特に入札参加資格を有することが不相当であると認めたとき。

(5) 落札結果の公表

落札者を決定したときは、落札者に対して速やかに通知するとともに、落札者の商号（法人にあつては名称）及び落札金額等を、落札者を決定した日の翌開庁日の午後1時から契約課のホームページにおいて公表し、併せて2の場所で閲覧に供する。

なお、開札日に落札者を決定しないときは、すべての入札者の商号（法人にあつては名称）及び入札金額等を、開札日の翌開庁日の午後1時から落札結果の公表までの間、契約課のホームページにおいて公表し、併せて2の場所で閲覧に供する。

(6) 落札者以外の入札者に対する書面による理由説明

落札者以外の入札者は、落札者とならなかった理由について書面による説明を求める場合は、落札者を公表した日の翌日から起算して2日後（日数の計算に当たっては、休日を除く。）の午後5時までに、その旨を記載した書面を2の場所まで持参し、提出すること。

6 入札保証金及び契約保証金

(1) 入札保証金

免除する。

(2) 契約保証金

免除する。

7 入札の無効

規則第6条の2各号（第3号を除く。）に該当する入札は無効とする。

8 その他

(1) 本件入札は、政府調達に関する協定の適用を受けるものではない。

- (2) 手続において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。
- (3) 契約書作成の要否 要
- (4) 本公告に関する問い合わせ先 2に同じ。
- (5) 設計図書の内容に関する質問は受け付けない。
- (6) 公正な競争を確保するため、本件入札において互いに競争相手であった落札者（以下「契約者」という。）と落札者以外の者（以下「非落札者」という。）とが次に掲げる事項を行うことを禁止する。
 - ア 契約者が、非落札者に本件業務を委託すること。
 - イ 非落札者が、契約者から本件業務を受託すること（契約者と直接契約を締結しない場合を含む。）。

(行財政局財政部契約課)